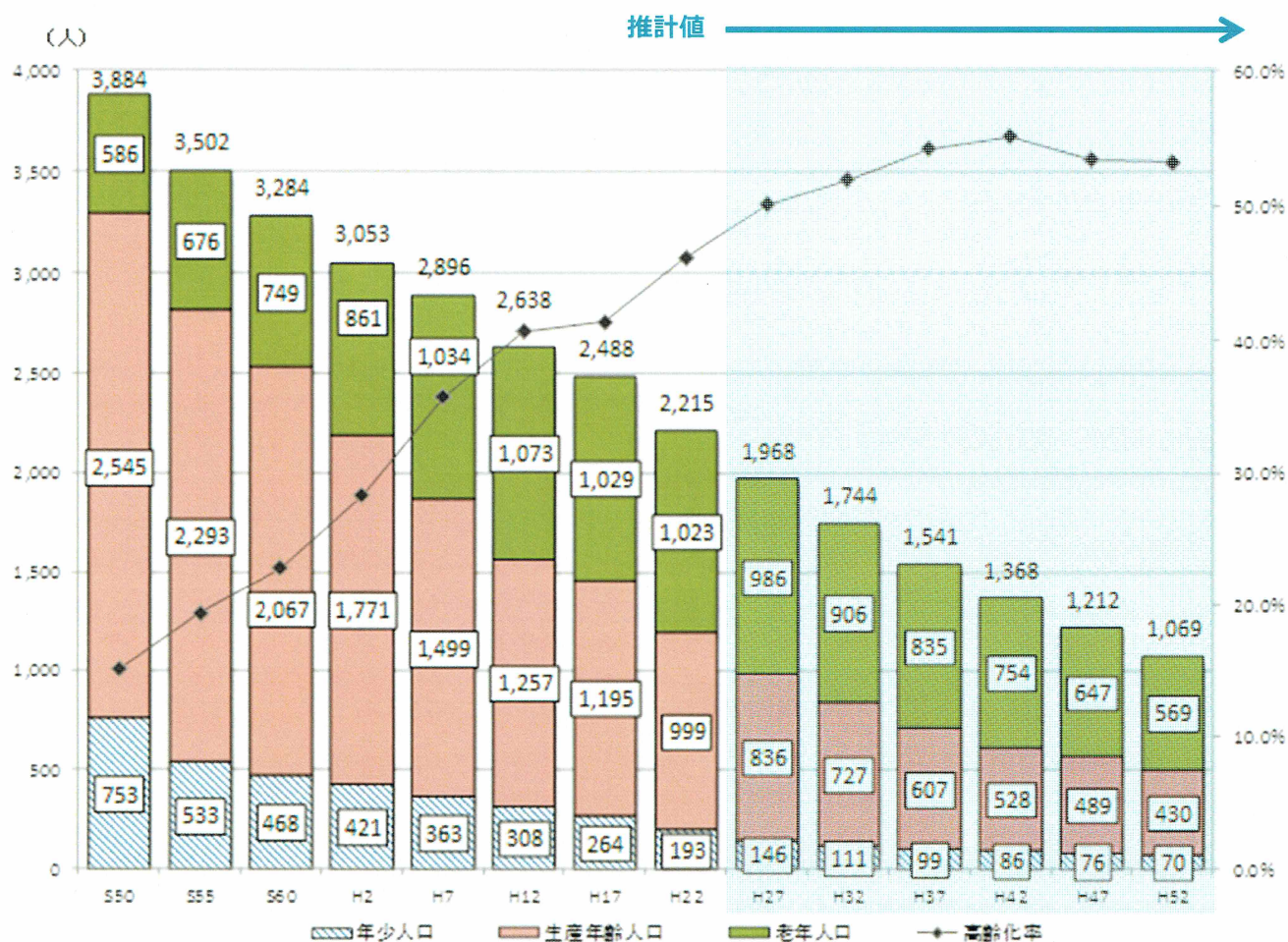


栄村人口ビジョン 目標人口検討資料

総人口・年齢区分別人口の推計

年齢3階級別の人口推計



(資料) 総務省統計局「国勢調査」、長野県「毎月人口変動調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

- ・ 上記は平成22年国勢調査を基本とした平成25年3月発表の国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の統計情報を活用し総人口を推計したもの。
- ・ 人口は減少傾向が続き、直近（平成22年）で約2,200人あった人口も、平成42年には1,500人を割り込み、平成52年には約1,000人まで減少する見通し。
- ・ さらに年齢3区分人口の推計をみると、直近（平成22年）に約1,000人いた生産年齢人口（15歳～64歳）は、平成52年には430人まで減少。また年少人口も同様に約70人に減少していることがわかる。

人口推計のパターン

自然動態改善 社会動態改善	何もしない	自然動態改善① 出生率2.07まで上昇	自然動態改善② 出生率2.28まで上昇
何もしない	パターン① 社人研推計値	パターン②	パターン⑥
社会動態改善① 転出入の差がゼロ (移動均衡)の状態	—	パターン③	パターン⑦
社会動態改善② 毎年5組(20歳～69歳の男性5名、女性5名)の移住者を受入	—	パターン④	パターン⑧
社会動態改善③ 毎年10組(20歳～69歳の男性10名、女性10名)の移住者を受入	—	パターン⑤	パターン⑨

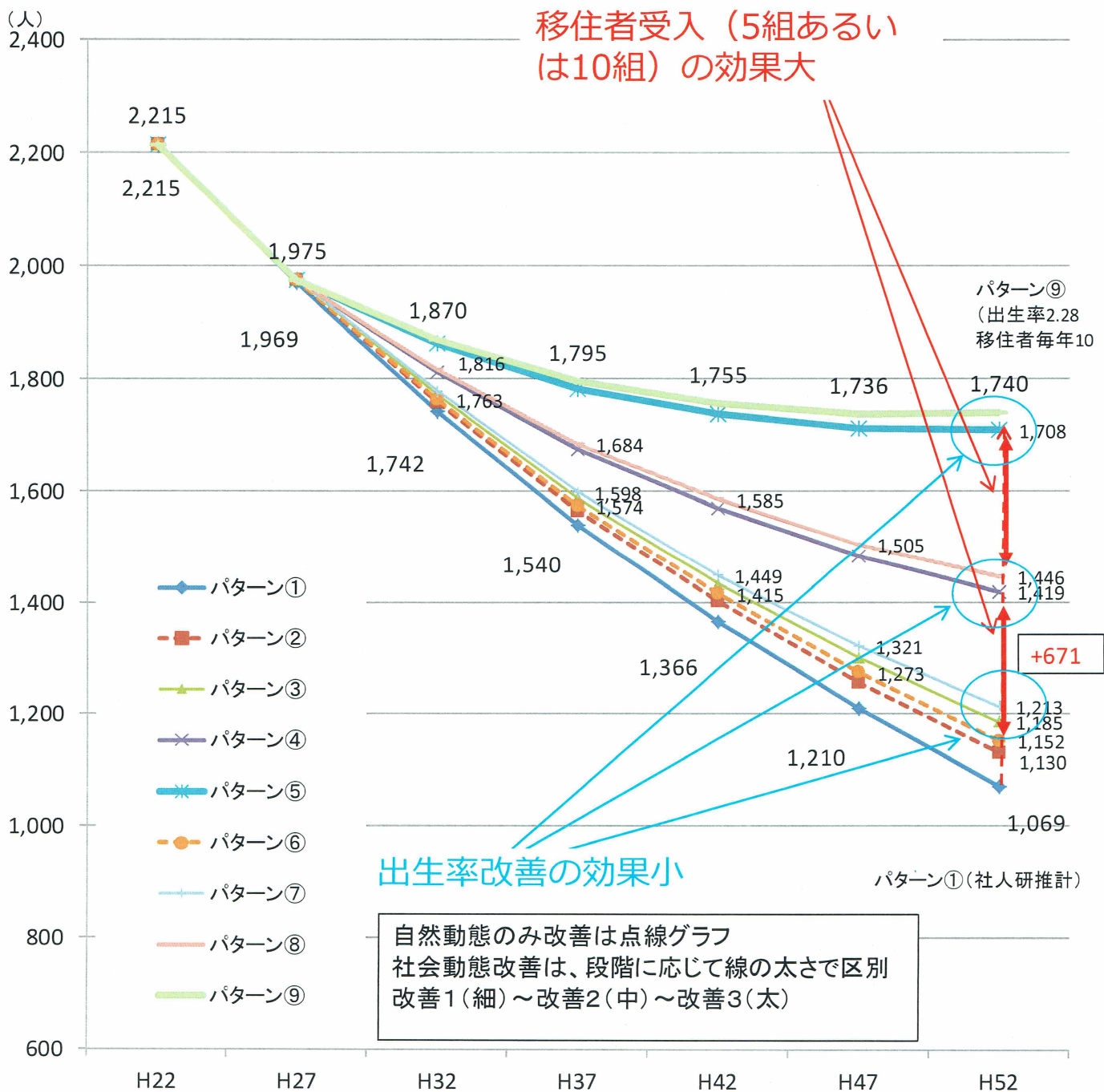
国や長野県の推計条件

推計条件の詳細

何もしない	社人研推計値
自然動態改善①	合計特殊出生率を 2015年1.44、2020年1.60、2030年1.80、2040年2.07と仮定
自然動態改善②	合計特殊出生率を 2015年1.44、2020年1.80、2030年2.00、2040年2.28と仮定（アンケート結果から産み育てられる子どもの数）
社会動態改善①	2020年以降、社会動態がゼロ（移動均衡）の状態
社会動態改善②	2020年以降、毎年5組の移住者を受入
社会動態改善③	2020年以降、毎年10組の移住者を受入

①～⑨の全9パターンで人口推計を実施

目標人口の推計結果①



①～⑨の9パターンで人口推計を実施

まとめ 目標人口の目安

目標人口1,200人レベル

パターン③、パターン⑦

- (1) 自然動態改善
 - ・出生率の段階的な上昇（2040年に出生率2.07か2.28）
- (2) 社会動態改善
 - ・転出入の差がゼロ（移動均衡）の状態

目標人口1,400人レベル

パターン④、パターン⑧

- (1) 自然動態改善
 - ・出生率の段階的な上昇（2040年に出生率2.07か2.28）
- (2) 社会動態改善
 - ・毎年5組（20歳～69歳の男性5名、女性5名）の移住者を受入

目標人口1,700人レベル

パターン⑤、パターン⑨

- (1) 自然動態改善
 - ・出生率の段階的な上昇（2040年に出生率2.07か2.28）
- (2) 社会動態改善
 - ・毎年10組（20歳～69歳の男性10名、女性10名）の移住者を受入